

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

**研修会記録**

第1号

令和 元年 6月 18日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 小 泉 齋

【提案日時】

6月 5日 (水)

提案 小泉 齋 先生 (山元小)

【会 場】

横浜市立山元小学校

司会 栗田 一輝 先生 (山下みどり台小)

記録 小島 早紀 先生 (山元小)

【研究討議】

単元名 『わたしたちの大好きなまち～山元のまちから横浜市にとび出そう～』

授業者 小泉 齋 先生

**自評**

新学習指導要領では、横浜市の学習に重点を置くこととされているため、市域について多く設けている。今年度はまち調査を2つのコースに絞り、違いを表にまとめると同時に山元の地図を作った。本時で目指したことは、地域によって本当に違いがあるのかどうかに焦点化していくことである。山元のまちと同じ流れで学習を進め、既習事項を横浜市でも適用させていく。また、「こどもの国」と「八景島」に焦点を当てることで地域によって特色や土地利用の違いが明確になり、単元を見通す学習問題が成立すると考えた。資料提示の場面では地図と動画のどちらを先に見せるのか迷う所であった。

**グループ討議****単元づくりについて**

- ・まちの学習した知識を横浜市の学習でも適用しようとしている所がよかった。
- ・子どもの視点をまちから市へ広げていくにはどうすれば効果的であるのか。(人の流れ、人の動きを見ていくことがポイントになるのでは考える。) まちの違いという言葉が難しかった。
- ・取り上げた場所をあらゆる面で関連付けていくことが大切である。その取り上げた場所を点ではなく、面として広げていくにはどうすればよいのか、これから研究していくことである。
- ・まち探検の視点についてしっかりとノート指導されていたのでよかった。単元づくりにもつながった。

**本時について**

- ・資料の地図は児童の興味・関心を高める効果的な資料であった。ただし、地名、土地利用、地形など情報が多かったため、少し焦点化しづらかったのではないか。
- ・取り上げた地域に「なぜ緑や工場が多いのか？」というところに本時でふれることができれば、これからの学習計画を立てる場面につながると考える。
- ・動画と地図を先生がつなぐ役割を果たしていく必要がある。動画では気付きが多く出ており、視覚的に支援ができていたため、大変効果的であった。その気付きを地図と関連付けていくことが大切。
- ・地図から場所の位置なのか、土地利用か、高低の違いなのか、この時間に何をとらえさせたかったのか吟味することによって、見せる資料が明解となる。

**子どものみとりと振り返りについて**

- ・振り返りを自由に書くのか、視点をもたせて書くのかについてねらいに違いがある。  
視点で書かせると、書けない子どもが多くいる。自分の思いを書いていくことから始めていくというねらいがある。書けるようになったところで視点をもたせて書かせるようにする。
- ・何が出てくるかによって資料が変わってくる。事前にみとりはどのようにしていたのか。  
→横浜市に何があるかをノートに書かせていた。前半部分で多くの意見を引き出すとともに、教師のねらいであった「横浜スタジアム」、「こどもの国」、「八景島」は出てくるように、朱書きで支援した。

**学年担当校長：黒田校長先生より**

- ・生活経験、学習経験が単元の学習問題をつくる中で生きていた。また違いを探していきたい、同じものを探していきたいというのが振り返りで出ていた。
- ・次にやりたいことと、今後を見通すことの違いについて検証していきたい。
- ・なんで違いがあるのかについて、これから先どのように注目していくのか計画していく。
- ・地図の見せ方も今後検討していきたい。

**講師：小西校長先生より**

- ・「次は何を勉強するの？」ではなく「次はこのことを調べる必要がある」という子どもを育てていく必要がある。子どもが学習の方向性を明確にし、それを意識するためにあるのが「単元を見通す学習問題」である。「単元を見通す学習問題」は、子どもたちが学習の方向に迷った時に立ち返る視点になる。
- ・単元のスタートから、横浜市のことを意識させていくことが必要ではないだろうか。横浜市の中心部ことは知っているが、周りのことはあまりわかっていない。子どもが横浜市についてどれくらい捉えられているのかを実態調査する必要がある。
- ・これまでの学習では25時間かけて、まちの地図を作っていた。そこまで時間はかけられないが、地図を作る学習はしないといけない。まち探検も意図的、計画的に焦点化していく必要がある。
- ・資料として使った地図の情報量について→土地の利用、地形、主要駅など必要な情報だけが入ったものがあるとよい
- ・「場所によって違いがある。」という言葉そのまま子どもに使わせたことが気になった。まちの状況と結び付けて地形を理解することが、「場所によって違いがあることに気付く」ということである。

**講師：秦先生（西部学校教育事務所 主任指導主事）より**

- ・単元を見通す学習問題はどやうやってつくるのかについて提案性のある授業だった。
- ・子どもの生活圏によって、経験や認識が変わる。2年の生活科とのつながりをどのように社会科に結び付けていくかが大切である。また教師が単元全体を俯瞰しプロデュースしていく。この単元では自分のまちと横浜で重なっていることがある。共通点、差異点を見ていき、横浜市を主に扱うことで、学習に広がりや深まりが出てくる。
- ・研究会の主題に迫るための視点について

#### **計画と振り返りと学習環境の整理**

振り返りの在り方は、子どもの実態によって変わってくる。

今後に向けて、何が振り返りの中で出てくればよいのかを考えていく。

何を調べればよいのか+どこまで調べればよいのか(見通し) 教師主導から抜け出していくことが大切。

教師が身につけさせたいこと ⇔ 子どもが学んでいきたいこと

- ・社会科の授業を中心として子どもをみとり、さらに子どもを育てていくことを目指していく。